中学歴史プリント（過去問類似）
戦国時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／9

問1 戦国大名が領国内の統制を図るために定めた「分国法」の性質について説明したものとして、正しいものはどれですか。（2024年　東京都公立入試　類似）

1. 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。
2. 日本で最初の本格的な法律であり、天皇を中心とした律令国家の仕組みを定めたものであった。
3. 源頼朝が全国の守護や地頭に対して、公家との紛争を公平に裁くために制定したものであった。
4. 豊臣秀吉が全国を統一した後、農民から武器を取り上げるために発令したものであった。

問2 戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。（2023年　滋賀公立入試　類似）

1. 堺
2. 博多
3. 長崎
4. 平戸

問3 15世紀後半に京都で始まった大規模な戦乱をきっかけに、室町幕府の権威が衰え、下の身分の者が実力で上の身分の者を倒して地位を奪うという社会的な風潮が広まりました。この風潮を漢字3文字で何といいますか。（2020年　千葉県公立入試　類似）

1. 下剋上
2. 徳政令
3. 執権政治
4. 惣一揆

問4 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（　）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（　）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」（2023年　山口公立入試　類似）

1. 領国
2. 幕領
3. 藩
4. 荘園

問5 戦国大名が、室町幕府の法律があるにもかかわらず、独自に分国法を制定する必要があった背景として最も適切な理由はどれか。（2021年　京都公立入試　類似）

1. 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。
2. キリスト教の布教を制限し、仏教を基盤とした道徳的な領国経営を行う必要があったため。
3. 元寇による社会の混乱を鎮め、分割相続によって困窮した御家人の生活を救済する必要があったため。
4. 貨幣経済が浸透し、外国との貿易による利益を独占するために全国共通の商業ルールが必要になったため。

問6 石見銀山では16世紀前半に「灰吹法」という新しい精錬技術が導入されたことで、銀の生産量が飛躍的に増大しました。この銀が当時の社会や国際情勢に与えた影響についての説明として、最も適切なものを選びなさい。（2026年　島根公立入試　類似）

1. 大量の銀が海外へ輸出されたことで、16世紀後半には日本の銀が世界の産出量の約3分の1を占めるほどになった。
2. 生産された銀はすべて国内の寺院や仏像の装飾に費やされ、戦国大名の信仰心を深める役割を果たした。
3. 銀は貴重な軍事機密として厳重に管理され、江戸幕府が成立するまで海外の商人と取引されることはなかった。
4. 銀の増産によって日本独自の通貨制度が完成し、中国から輸入されていた銅銭は一切使われなくなった。

問7 1543年に九州南部の種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について、その後の歴史に与えた影響として正しいものはどれか。（2016年　群馬県公立入試　類似）

1. 戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。
2. この武器の輸入を目的として、室町幕府の足利義満によって明との間で勘合貿易が開始された。
3. 鎌倉時代にモンゴル帝国が襲来した際、日本の武士が防衛のためにこの武器を組織的に使用して撃退した。
4. この武器の伝来をきっかけに、日本独自の武術である剣術や弓術が廃れ、すべての合戦がこの武器のみで行われるようになった。

問8 日本に鉄砲が伝来した16世紀半ばの世界情勢について説明した文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2019年　大分県公立入試　類似）

1. ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。
2. ムハンマドがイスラム教を創始し、アラビア半島の統一を進めていた。
3. チンギス・ハンがモンゴル帝国を建国し、ユーラシア大陸の広範囲を支配していた。
4. アメリカでリンカーンが大統領に就任し、南北戦争が勃発していた。

問9 1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師は誰か。（2017年　北海道公立入試　類似）

1. フランシスコ＝ザビエル
2. ルイス＝フロイス
3. ヴァリニャーノ
4. マテオ＝リッチ

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。**	分国法は、駿河国の「今川仮名目録」や甲斐国の「甲州法度之次第」のように、各戦国大名がそれぞれの領国の維持・発展のために独自に定めた法典です。幕府による全国一律の支配が及ばなくなった時代において、各大名が家臣の統制や年貢の確保、領民の管理などを目的として作成しました。他の選択肢にある大宝律令や御成敗式目、刀狩令とは時代や制定主体が異なります。
問2	**答え 1** **堺**	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。
問3	**答え 1** **下剋上**	応仁の乱によって幕府の統制力が弱まると、身分秩序が崩れ、実力主義の社会へと変化しました。「下の者が上の者をしのぐ」という意味のこの言葉は、室町時代後半から戦国時代を象徴するキーワードとなりました。
問4	**答え 1** **領国**	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国強兵を進めるための重要な手段でした。
問5	**答え 1** **室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。**	応仁の乱以降、室町幕府の権威が失墜し、全国的な法秩序が機能しなくなりました。下剋上の風潮の中で生き残るため、戦国大名は独自の法を設けることで家臣の勝手な行動を制限し、領内を一貫して支配する体制を整える必要がありました。
問6	**答え 1** **大量の銀が海外へ輸出されたことで、16世紀後半には日本の銀が世界の産出量の約3分の1を占めるほどになった。**	灰吹法の導入により高品質な銀の大量生産が可能になると、その銀は博多などの港を通じて中国（明）や朝鮮半島、さらには東アジアに進出していたポルトガルやスペインとの貿易に用いられました。これにより、日本は世界有数の銀産出国として世界経済に組み込まれることになりました。戦国大名が石見銀山を欲したのは、この銀を背景とした強大な経済力や武器・物資の調達能力を手に入れるためです。
問7	**答え 1** **戦い方が騎馬による一騎打ちから、足軽による集団戦へと変化し、城の構造も強固な石垣を持つものへと変化した。**	1543年に種子島に伝わった鉄砲（火縄銃）は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬戦中心から、訓練された足軽による集団戦が主流となり、織田信長などの有力大名がこれを活用して全国統一を進めました。また、鉄砲の威力に対抗するため、城は高い石垣や堀を備えた大規模なものへと進化しました。
問8	**答え 1** **ドイツのルターが、ローマ教皇や教会の権威を否定し宗教改革を開始していた。**	鉄砲が伝来した1543年は16世紀にあたります。この時期、ドイツではルターによる宗教改革が進んでいました。他の選択肢について、イスラム教の創始は7世紀、モンゴル帝国の建国は13世紀初頭、アメリカ南北戦争は19世紀の出来事であり、いずれも鉄砲伝来の時期とは重なりません。
問9	**答え 1** **フランシスコ＝ザビエル**	スペイン出身でイエズス会の創立会員の一人です。インドのゴアで出会った日本人アンジロウ（ヤジロウ）の案内で来日しました。その後、平戸や山口、豊後（大分）などで布教活動を行いました。ルイス＝フロイスは後に来日し『日本史』を記した人物、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を勧めた人物であり、活動時期や内容が異なります。